

リンゴドクガ

平成21年9月28日に北保健所から「市民からリンゴドクガの相談がありました。あまりにも美しいので送ります」との連絡が入りました。送られてきた標本は、生きていました。思わず「きれい」とつぶやきました。全身に透明感を漂わせる長短交えた黄色の毛が密生しています。また、所々に黒色の毛を交えます。腹部第8節には、美しい朱色の毛の束があります。

第1腹節と第2腹節の間及び第2腹節と第3腹節の間に明瞭な黒色の模様があります。普通は、見えないのですが、刺激を与えると現れるといわれています。今回も試しに幼虫の腹部の毛を逆なでしてみると、きれいな黄色の体に真っ黒な模様が見るうちに現れてきました。見方によっては、まばたきのようにも見えます。こうした動作は、天敵などを威嚇するものだとされていますが、シャチホコガの幼虫が体を反り返って、あるいはフラスズメの幼虫が左右に体を激しく振って威嚇するのに比較すると、何ともささやかなものです。

ドクガ科の特徴

リンゴドクガは、名前のおり、ドクガ科の仲間です。ドクガ科幼虫の特徴は、腹部の第6節、第7節に腺(せん)状物があることです。ただ、今回のリンゴドクガの *Dasychira* 属の仲間は、腹部第7節のみに腺状物があり、第6節にないのが特徴です。この腺状物の腺の意味は、分泌活動を行う細胞の集まりといわれています。しかし、ドクガ類の仲間が何を分泌しているのかは、手元の書籍や図鑑では分かりませんでした。

ちなみにアゲハチョウの仲間では、刺激を与えると胸部から二またに分かれた黄色や赤色の腺状物がニョッキと出てきます。こうした動作は、天敵を脅かす役割を果すとともに、同時に独特のにおいを放ち天敵を寄せ付けぬ役割も果します。このことからアゲハチョウの仲間の腺状物は、においの角と書いて、臭角(しゅうかく)と呼ばれます。

人へ健康被害

ドクガ科の仲間ですが、人の皮膚炎を起こすことはありません。光学顕微鏡下で観察しましたが、毒針毛や毒棘(きょく)を持ちません。このことを確認するために、実際に腕の上に乗せて、様子を見ましたが、皮膚炎を起こすことはありませんでした。

ドクガ科の多くの仲間の和名には、今回のリンゴドクガのようにドクガという名前が付きます。しかし、多くは、人に対して、皮膚被害を生じさせることはありません。ドクガ科の仲間で毒針毛を持ち激しいかゆみの原因になるのは、ドクガやチャドクガなど *Euproctis* 属と呼ばれる仲間の種類です。

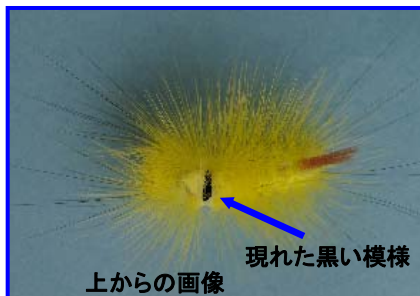
ヨトウガ幼虫の眼



蛾(が)幼虫の眼

昆虫の眼は、大きく分けると単眼と複眼に分かれます。単眼は、明暗の区別をしますが、複眼は、個眼と呼ばれる眼の集まりで、形や色の違いが分かるといわれています。蛾幼虫の眼は、普通、6個からなり、頭部の側面に環状に位置します。形状から見て、単眼のようにも見えますが、機能的には複眼を構成する個眼の役割を持っています。個眼には、数個の感覚細胞しかなく、極めて美しいリンゴドクガの幼虫は、自分が美しいことを知る由もないでしょう。

側面からの画像



上からの画像

